

例えば

こんなことに困ることがあります

知的障害のあらわれ方は人によってさまざまです。ここでは、いくつかの例をご紹介します。

コミュニケーションを上手にとること

分かっているように見えても、実際には話の内容を理解していないことが見られます。また、自分の考えや気持ちを的確に表現することに困ることがあります。



自信がないことから、誤解されやすい行動を取ることがあります

日常生活の中で失敗した経験をもっていることも多いので、また失敗するのではないかとびくびくしていたり、自信がなく消極的になりがちです。また、できないことでも「できる」と言ってしまう、自分をよく見せようとして背伸びした行動をとることもあります。障害のある方が成功体験を通して自分に自信を持てるように、できるところに目を向けた支援が求められます。



学習に時間がかかります

仕事を覚えても、翌週になると仕事のしかたを忘れていたり、指示した3つの仕事のうち、ひとつしか実行していないことがあります。そのために、支援者からは意欲がなかったり、反抗的に見えてしまうかもしれません。一つひとつ具体的に指示しながら確認し、次の指示をすることが大切となります。また、大切なことはメモにして渡すことも必要です。



状況に応じた行動をすること

突発的な出来事に対して臨機応変に対応したり、状況に応じてTPOをわきまえた行動をすることに困ることがあります。例えば、通常使っている交通機関が事故等で使えなくなったときに代替交通機関を利用することがむずかしいことがあります。



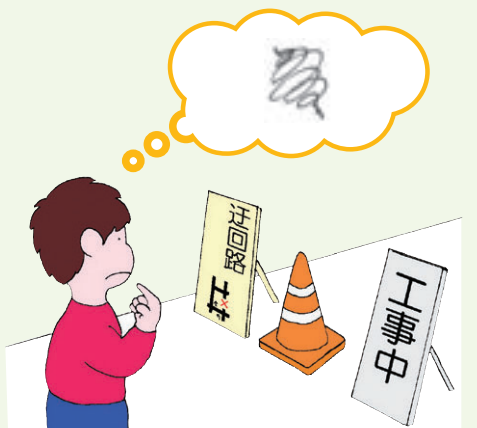
人間関係を理解すること

知的障害のある方は相手の気持ちや都合を考えて行動することが苦手です。また、自分の気持ちをうまく表現することができなくて、よい対人関係を築くことが困難となり、誤解されやすいといえます。また、知的障害のある方の中には家族以外の人たちとつきあった経験に乏しく、適切な人間関係のとりかたを学習していないことがあります。



判断したり、見通しをもって考えること

知的障害のある方は抽象的な事柄について判断したり、見通しをもって考えることが苦手です。例えば、いつも通っている道が工事中で通行止めになっている時に、回り道をしようという考えが浮かばずに、そこに立ちつくすというようなこともあります。



このリーフレットについて

ここで紹介している情報がすべての知的障害者にあてはまるわけではありません。相手の目線に立ち、個々の障害の状況に合わせて接することが大切です。「その人」への理解は、障害のあるなしに関わらず、お互いに一人の人間としてつきあう中で育まれるものではないでしょうか。



ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分らなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/shougai/shougai_shisaku/helpmark